



八巻歯科医院院長(神奈川県)

山口里恵 ⑥

い時期。特に中旬ころは……。

「お嬢さま学校」と世間で呼ばれている私が通っていた学校では、小学校の中学年になると自宅に友達を招いてお祝いするお誕生会が盛んに行われていた。歯科医師である母は、自宅でのパーティーは準備が大変なので

ところが肝心のお誕生会の当日になると、毎年のように台風が来るか、私が熱を出すかで中止に。ある年などは、あまりに浮かれ過ぎていて私を見かねた母の怒りにふれ、中止になってしまった。結局、友人に呼ばれることはあっても、自分のお誕生会

誕生パーティー

お誕生日というのはいくつになってもうれしいものだ。と言っても織田信長の「人生50年……」よりも長い人生を生きているといういろいろな目に遭うのも事実。人生の引き際は、かっこよくいきたいものだ。さて私の誕生月の9月は、毎年台風の多

いやがっていたが、私はひそかに自分のお誕生会の順番を心待ちにしていた。誰を呼ぼうか、どんなごちそうが出るのか、プレゼントは何をいただけるのか……、その日だけは自分が物語の主人公になれるのだから勉強なんてそっこのけで楽しくて仕方がない。

は1度も経験することなく小学校を卒業してしまった。その後も相変わらず私の誕生会は開催されることなく、年月だけが過ぎていった……。結婚して初めての誕生日。主人は私の誕生日コンプレックスをよく知っていたにもかかわらず、誕生日が近づくと9月の声を

聞くと、イライラ、ドキドキ、そわそわし始める私に知らんぷりを決め込んでいた。しかし、誕生日の当日、朝起きるとベッドの上にリボンの巻かれた箱が……。何ともテレビドラマに出てくるような状況に、私の長年の誕生日コンプレックスは解消された。いよいよ待ちに待った王子様が現れたのだ。しかし、おいしい話は長くは続かない。娘の誕生とともに主役の座も王子様も娘に取られてしまった。それから何年も過ぎ、そのうち「自分へのプレゼント」と称して何かしら買うようになっていった。優しい主人はあの世に去り、今年もまた誕生日が来る。今年はお自分のためのプレゼントに脳ドックにでも行ってみようか。